

保健管理センター

1 構成員

	平成22年3月31日現在
教授	0人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	1人（0人）
助教（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	1人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	3人

2 教員の異動状況

橋本 大（講師）（H22. 3. 1～現職）
 竹下 香（特任助教）（H21. 4. 1～H21. 2. 28）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成21年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3編（0編）
そのインパクトファクターの合計	18.63
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Takeshita A, Shinjo K, Yamakage N, Ono T, Hirano I, Matsui H, Shigeno K, Nakamura S, Tobita T, Maekawa M, Ohnishi K, Sugimoto Y, Kiyoi H, Naoe T, Ohno R: CMC-544 (inotuzumab ozogamicin) shows less effect on multidrug resistant cells: analyses in cell lines and cells from patients with B-cell chronic lymphocytic leukaemia and lymphoma. Br J Haematol 146: 34-43, 2009.
2. Takeshita A, Yamakage N, Shinjo K, Ono T, Hirano I, Nakamura S, Shigeno K, Tobita T, Maekawa M, Kiyoi H, Naoe T, Ohnishi K, Sugimoto Y, Ohno R: CMC-544 (inotuzumab ozogamicin), an anti-CD22 immuno-conjugate of calicheamicin, alters the levels of target molecules of malignant B-cells. Leukemia 23: 1329-36, 2009.
3. Hirano I, Nakamura S, Yokota D, Ono T, Shigeno K, Fujisawa S, Shinjo K, Ohnishi K: Depletion of Pleckstrin homology domain leucine-rich repeat protein phosphatases 1 and 2 by Bcr-Abl promotes chronic myelogenous leukemia cell proliferation through continuous phosphorylation of Akt isoforms. J Biol Chem 284: 22155-65, 2009.

インパクトファクターの小計 [18.63]

(3) 総 説

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 竹下明裕, 新庄香：【骨髄性白血病 病因・治療研究の進歩】 診断法の進歩 骨髄性白血病の生物学的マーカー. 日本臨床67: 1916-1920, 2009.

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成21年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成21年度
(1) 文部科学省科学研究費	1件 (299万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

竹下（新庄）香（代表者）基盤研究（B） 蛍光標識糖鎖ホルモンを利用した機能的受容体の定量法の確立と補充療法の有効性予測 299万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	1件
(6) 一般演題発表数	2件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Daisuke Yokota, Satoki Nakamura, Tomonari Takemura, Isao Hirano, Shinya Fujisawa, Kaori Takeshita, Takaaki Ono, Kazuyuki Shigeno, Kazunori Ohnishi: Downregulation of THAP11 by Bcr-Abl Promotes c-Myc-Mediated CML Cell Proliferation. 51st ASH Annual Meeting and Exposition, December 2009, New Orleans, USA
2. Depletion of PHLPP1 and 2 by Bcr-Abl Promotes CML Cell Proliferation through the Continuous Phosphorylation of Akt : Isao Hirano, Satoki Nakamura, Tomonari Takemura, Daisuke Yokota, Takaaki Ono, Kazuyuki Shigeno, Shinya Fujisawa, Kaori Shinjo and Kazunori Ohnishi. 51st ASH Annual Meeting and Exposition, December 2009, New Orleans, USA

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

竹下 香：日本血液学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

竹下 香：International Journal of Hematology（Japan） 2回

Journal of Advanced Nursing（UK） 1回

9 共同研究の実施状況

	平成21年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成21年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. これまで私達が開発してきた造血因子受容体のnon-isotopic ligand binding assay法は、蛍光色素で標識した造血因子をその受容体に結合させ、energy transferを利用して赤色蛍光を発光させ、その蛍光量から細胞上の受容体数をflow cytometryにて定量的に解析するものである。本法はラジオアイソトープを使用しないため施設の限定を受けず、再現性があり、煩雑性やコスト面からもすぐれている。これをさらに糖鎖を保有するTSHなどのホルモン受容体の解析に応用し、測定系の確立について検討をすすめている。（竹下香）

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. ホルモン受容体の簡便な測定系が確立されれば、疾患の診断や治療効果の評価などへの幅広い臨床応用が期待される。（竹下香）